

令和3年度「一中の教育を振り返る意識調査」 学校評価の結果と考察

調査実施日 令和4年1月18日～28日

1 調査について

本校では、毎年、教育活動や学校運営について継続して改善を行うために、「一中の教育を振り返る意識調査」を行っている。これは、学校経営方針について、保護者・生徒・教職員の三者にアンケート形式で調査をしているものである。学校経営方針の5分野15項目についての質問項目とし、上記日程で保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査を行い、回収したアンケートの結果をまとめ、分析をした。

なお、今年度から、保護者、教職員、生徒がメールシステムを活用し、Webで回答する形式にした。ただし、生徒は教室で一斉に回答した。

※回答は「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」からの選択

2 調査結果と考察

(1) 総評

「4」「3」の合計が80%を超える評価は、15項目の評価項目中、保護者3項目、生徒11項目、教職員10項目であった。昨年度は、「4」「3」の合計が80%を超える評価が、保護者9項目、生徒13項目、教職員12項目であり、特に今年度の保護者のアンケートについては80%を超えている項目の数が大きく低下した。これは、昨年度に引き続き、今年度も来校する機会がほとんどなく、ホームページ更新の課題があり、「学校の様子がわからなかった」「評価できない」という指摘も散見され、学校の様子が伝わらなかったことが評価の一因と考える。また、学年毎に結果を見ていくと、1学年の評価と比べ、3学年の評価が高くなる傾向が顕著に表れた。それは、保護者が学年を追う毎に中学生のあるべき姿を理解していくことと、生徒自身に成長している姿が見られるようになっていくことに関連しているものと考えられる。

(2) 成果

各質問項目とも概ね「4」「3」の評価であった。その中で、三者いずれも90%以上の高い評価を得たのは、次の項目1(1)である。また、生徒と教員の二者から90%以上の高い評価を得たのは、次の項目1(2)であった。この2つの項目は、昨年度どちら三者いずれも90%以上の評価であったが、項目1(2)においては保護者の評価が今年度87%と90%をやや下回った。傾向としては、昨年度と同様の傾向と捉えている。

三者

「いのち」を大切に作る心を育て、自己有用感を高める。 項目1(1)

生徒と教師の二者

互いの個性を尊重し、共に伸びようとする力を養う。 項目1(2)

「一中いのちの日」の取組では、講話や読み語り、仲間の良さに目を向けた社会性を養う活動等を行い、「いのち」を見つめる大切な時間として定着している。また、振り返りをきちんと行っただけで、「いのちの日便り」を発行し、その活動内容や生徒の感想を生徒や保護者に伝えていることも高い評価につながっていると考えられる。

コロナ禍にあっても「FF体育祭」や「合唱コンクール」等の学校行事を可能な範囲で実施し、本番に至るまでの過程を大切にしたい取組やその活動を通して、充実感や自己の成長を実感することができていることがうかがえる。

「修学旅行」「仲間づくり研修」をはじめとする、学級、学年、学校等の仲間づくりに重点を置いた日々の活動の中では、一人一人の存在感や自分の良さを自覚できるように配慮し、よりよい人間関係構築のために、学年団や担任を中心に二者面談やQ-Uアンケートを踏まえた取組等を行ったことが成果につながっていると思われる。特に「修学旅行」については、最終的に旅行先を県内として実施したが、感染予防を行いながら、実行委員を中心として生徒全員が力を合わせ充実した修学旅行とすることができた。そのため、今回のアンケートでは保護者からの意見は見られなかった。

(3) 課題

保護者・生徒・教員の三者がともに評価が低いのは、項目2(2)、5(1)、(2)であった。保護者・生徒の二者の評価が低かったのが項目3(3)、保護者・教員の二者の評価が低かったのが項目1(3)、5(3)である。保護者の評価が低かったのが項目2(1)、(3)、3(1)、(2)、4(1)、4(3)である。

三者

- ◆本物や本質に触れ、知的好奇心を揺さぶる授業展開を工夫する。 項目2(2)
- ◆地域を舞台にした教育活動で郷土愛を育み、地域の一員としての自覚を高める。 項目5(1)
- ◆地域の指導者や支援者の協力を得て、地域に開かれた教育活動を実践する。 項目5(2)

保護者と生徒の二者

- ボランティア活動により、社会性や貢献意欲を育む。 項目3(3)

保護者と教員

- 夢や目標を持ち、主体的に生き方を考える力を養う。 項目1(3)
- 学校評価の結果を分析し、学校経営に生かす。 項目5(3)

保護者

- 主体的に取り組める課題を設定した探究型授業を実践する。 項目2(1)
- さわやか読書や一中讃歌などの言語活動で生徒の感性を育み、思考力を育てる。 項目2(3)
- 日常生活で当たり前の行動が当たり前できるようにする。 項目3(1)
- 集団での活動や部活動で、やり抜く力や自制心を高める。 項目3(2)
- 教材研究に意欲的に取り組み、生徒主体の授業づくりを進める。 項目4(1)
- 特別支援教育や教育相談の充実により、生徒の個性の伸長を図る。 項目4(3)

保護者・生徒の学年別の回答を比較すると、1学年保護者の「4」「3」の合計が80%を超える評価は、項目1(1)、(2)、4(2)3項目であった。一方、3学年保護者では、80%を超える評価は、項目2(1)、(2)、3(3)、4(1)を除く11項目であった。特に項目2(2)について、保護者・生徒ともに評価が低いことが気になる。学習指導要領全面实施となり、教員の授業力や指導力を高めるために校内研修などを実施しているが、今後保護者の授業参観等の場を工夫して設定し、指導と生徒の学びを観ていただくことが肝要である。また、来年度も校内研究を柱として、授業改善を進めていきたい。

保護者の意見では、多くの方が一中の良い点として「ボランティア活動」があげられているものの、特に1年生の保護者・生徒の項目3(3)の評価が、どちらも60%台と低かった。また、コロナ禍において地域を舞台とした活動や地域の方との交流が制限され、実施の機会が少なかったことが影響し、三者における項目5(1)、(2)の評価が低くなったと考えられる。社会性や貢献意欲を育み、自主性の育成や思いやりの心の醸成をめざし、今後も「ボランティア活動」を継続していきたい。また、総合的な学習等で地域を舞台にした学びを取り入れ、郷土愛を育む手立てを検討していきたい。

保護者、生徒の評価から、今後早急に課題解決に取り組むことが可能なことから実践に移し、次年度の教育活動の充実に努めていく。

なお、昨年度まで学校評議員会で行っていた学校関係者評価については、今年度学校運営協議会が3月に発足することから、来年度から学校運営協議会の中で再び実施する。

学校評議員会において

学校評議員会では、はじめに、「一中の教育を振り返る意識調査の集計結果」について説明を行い、来年度から導入する予定の学校運営協議会について説明しました。

その後、学校評議員の皆様から意見をいただきました。保護者の評価が全体的に昨年度と比べ低かったことについて、今年度、保護者が学校に来る機会がほとんどなかったことが一因となっているのではとの意見がありました。「地域との連携に関する項目」で、教職員の評価が昨年度と比べ低くなっている点について、教職員が地域と連携する意識を高めていく必要が感じられるとのご意見をいただきました。学校運営協議会を導入し、地域との連携を深めるにあたって、教職員の研修を実施することの必要性や、「総合的な学習の時間」の改善を図るなど教育課程の改善を検討していくこと、地域連携推進員の選定が大きなポイントになることなどが今後の課題であることのご指摘がありました。さらに、教員は地域との連携を課題としているが、保護者や生徒は授業（学力）の充実を求めており、生徒が地域課題について取り組むような探究型授業を仕組みないか等のご要望もいただきました。

学校運営協議会に関わって、本校では令和3年度を試行期間、令和4年度に完全実施を目指すことについて、委員を選出する際、地域ごとの委員数のバランスをとる必要があり、準備委員会を立ち上げるなど、話し合いを深めておく必要があるのではないかなどのご意見をいただきました。また、校長が2～3年で異動することもあり、長期的な戦略が出来るのか、他の教職員も学校運営に使命感を持つことができるよう、ある程度長い期間の勤務も必要ではないかなどのご意見もいただきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、例年と異なり、生徒活動を学校評議員が参観する機会がなかったが、学校ホームページによる情報公開がよかったとのご意見や、教職員も地域のコミュニティ・センターに足を運ぶなどして交流を深めてほしいとの要望もいただきました。今後もコミュニティ・センターの協力を得て生徒活動の広報活動を行うことや、「学校だより」等の地域での回覧を行うなど、地域への情報発信を大切にしていくことを確認しました。

次に、協議題「地域課題～地域課題に対して中学生が取り組むべきこと～」について意見交換を行いました。学校評議員の皆様からは、郷土愛を育むための事業が少ないこと、県教委が4年前に作成した「郷土山形」の資料が十分に活用されていないこと、地域課題に取り組むには地域コーディネーター役がないと大変であること、講師謝礼など学校の活動資金が必要ではないかなどのご意見が交わされました。また、子供たちがゲームを行う時間が増え、心が育っていないことや、コミュニケーション能力の育成が課題として挙げられました。PTAも絡め、地域連携への中学生の取組がさらに発展するよう進めていってほしいとのご意見もいただきました。

最後に、学校運営協議会を有効に活用するためには、推進員がキーパーソンになることを鑑み、地域の状況をよく知り、課題を吸い上げるため、いろいろな情報を持っている人を選出すること、地域課題と学校課題を繋ぐ働きを学校運営協議会が担うこと等の方向性が確認されました。